

cue

07



特集

木と建材からみた
ミラノサローネ10年床の記憶
MESSAGE FROM FLOORS.

47

新しいバツシュを
買ってもらった時、
フローリングでためし履きをして
キュツキュツと鳴らしていた。

Salone del Mobile Milano

特集

木と建材からみた

ミラノサローネ10年

毎年4月にイタリアのミラノで開催されるミラノサローネ国際家具見本市(Salone del Mobile.Milano)は、それに伴って市内で展開されるフォーリサローネ(企業がショールームや特設会場で行う新作発表やインスタレーションなどのイベント)とあわせて「ミラノデザインウィーク」と呼ばれ、世界最大のデザインの祭典として注目を集めています。ミラノデザインウィークには、日本からもインテリアや建築に携わるプロフェッショナルの方々がたくさん視察に訪れており、その数は年々増えています。

私達がミラノデザインウィーク、ミラノサローネを視察する目的は、大きく2つ、「トレンド調査」と「商品企画のネタ・アイデア探し」です。「トレンド調査」は、単にプロダクトの色、素材、仕上げといった表面的なデザイントレンドを掴むことだけが目的ではありません。世界的なトップブランドや先鋭的なデザイナーが、その時々の社会背景、メガトレンドを踏まえて出してくる提案に直に触れることで、時代の趨勢、これからの時代に求められるものを感じとること。そこにミラノサローネを視察する意味があると思っています。

今回は、2018年の視察報告に加え、木質建材メーカーの視点から見たミラノサローネの過去10年を振り返ってみたいと思います。



Kartell

プラスチック家具のトップブランドが突板の家具を発表。昨今の環境問題における世界的な脱プラスチックトレンドを象徴するかのようにインパクトがあった。ちなみに写真のフィリップ・スタルクが持ち上げているのはアッシュ(タモ)の椅子です。



Panasonic

創立100周年を迎え、新しいデザインのテーマとして「TORANSITIONS(遷移)」を掲げるパナソニックが、目に見えないもの、人の気持ちや体験までもデザインしていくという強い意志を込めたインスタレーション。「Air Inventions(空気の発明)」がコンセプト。



LOUIS VUITTON

たくさんの革でできた花が天井から吊るされた幻想的な空間。照明の演出でVUITTONの革のカット技術を実際たせつつ、美しいブランドの世界観を作り上げていた。思わず「すごい…!」と声が出る展示でした。

ミラノサローネ2018 レポート

今年のミラノサローネは、6日間に188カ国・地域から、過去最高の43万4,509人が来場。これは隔年で開催されるキッチン・バスルームの見本市「ユーロクッチーナ」が開催された2016年と比べ16%増で、昨年比に至っては26%もの増加になります。

活況を呈した今年のミラノサローネでしたが、建材メーカーの視点から今年のトレンドを一言でいうと、『天然木・大理石といった“本物素材”のさらなる台頭』です。昨今の世界的な脱プラスチックのトレンドは、インテリアの世界にも大きな影響を与えており、そのことが人の意識を今まで以上に“本物素材”へ向かわせているように感じます。それでは、今年のインテリア全般のカラートレンド、そして木質トレンドについて報告いたします。

今年もっとも印象に残ったベスト3

年々注目度を増すミラノサローネには、その高い宣伝効果に期待し、また、新たなビジネス機会の創出やブランディングを目的として個人のデザイナーから世界的な巨大企業まで様々な人・企業が出展しています。今年も趣向を凝らした展示やインスタレーションからたくさんの刺激と気づきを得ることが出来ましたが、その中でも特に印象的だったものを3つご紹介します。

2018

グレイージュをはじめとする アースカラーが継続

ベースカラーは、ここ数年続いているグレイ、ブラウン、ベージュなどのアースカラーが継続しています。特にグレイージュ、トープ（もぐらの色・グレイッシュブラウン）が多く見られました。差し色としてオレンジ、イエロー、辛子色、ブルーグリーンが使われています。また、光の当たり方や見る向きによって色の見え方が微妙にかわる、ベルベットやペロアなど光沢のある生地、光干渉によってシャボン玉のような虹色に見えるガラス、樹脂といった素材を使うのも今年のトレンドのようです。インテリアのトレンドはファッションからくると言われていますが、年々そのタイムラグは小さくなり、ほぼ同時進行的にファッションと連動したトレンドとなっています。



Baxter



Molteni&C



Minotti



Poliform



Poltrona Flau



Porada



Glas Italia



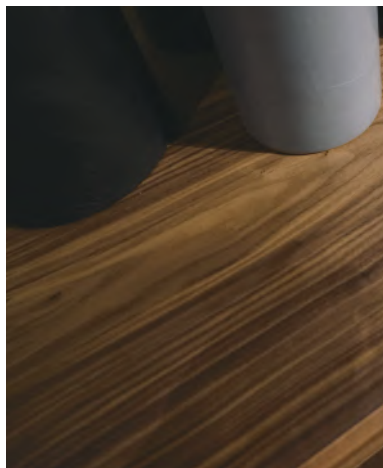
Cassina



Rossana Orlandi

グレイッシュユーカーと ハイグロス仕上げ

木質トレンドは、オークとウォルナットの2大樹種トレンドが継続。今年はオークの比率が高まっている印象です。着色することが多いオークは、ホワイト、ブラック、モカブラウン、グレイが多く見られますが、中でもグレイは薄いものから濃いものまで幅広く見ることが出来ます。オークをはじめ、アッシュ、エルム（ニレ）などの環孔材樹種への着色は、オープンポア（道管の凹凸を残す）仕上げにしたり、ブラッシング加工を施したうえに、道管部分とその他の部分に色差を付けるなど、木目を際立たせることにより、着色をしても素材感を損なわない仕上げが多く見られました。ツヤ感に関しては、マットなものが多いですが、ハイグロスなものも少し高まっているようです。とくに「照り」のある樹種はツヤを上げることによって天然木ならではの美しい光沢が生まれます。これは、先に述べた光の当たり方で色の見え方がかわる素材使いのトレンドと相まった傾向なのかもしれません。



ウォルナット「Natuzzi」



グレイッシュ着色のオーク「Poliform」



左写真のアップ。オープンポア仕上げ。



ハイグロスのバーチ「ARMANI CASA」



ハイグロスのエルム「MisuraEmme」



マットなエルム「MisuraEmme」

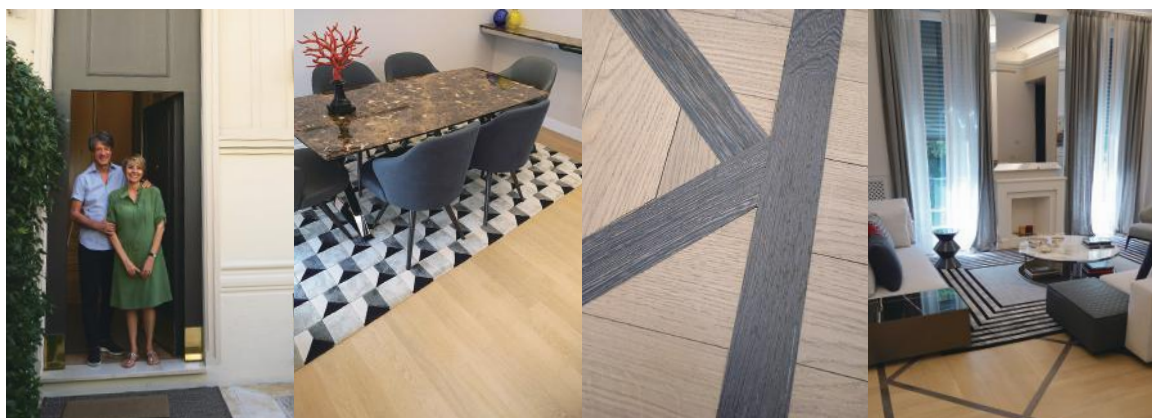


コラム 世界の床 vol.1

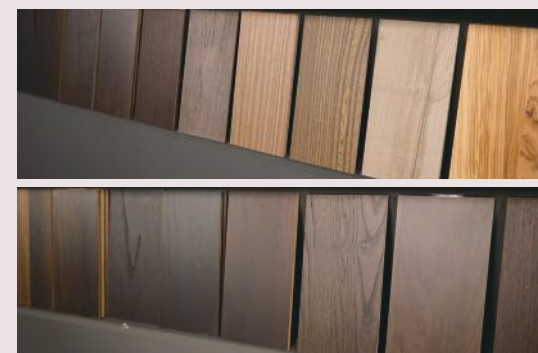
イタリアの一般住宅の床

主張のあるデザインを使いこなす感性

イタリアで床といえば大理石とタイルのイメージが強いのですが、比較的裕福な家庭では「木の床」を貼るケースが増えてきているそうです。今回、ミラノ郊外にあるM様邸に伺いました。ヨーロッパにおける木の床はほとんどがオーク材です。こちらのお宅でもオークの挽き板フローリングがデザイン貼りされていました。黒いボーダー部分の樹種はウェンジ。オークの挽板には擦り込み系のホワイト着色が施されています。日本ではあまり見られない主張の強いデザインですが、グレイッシュトーンのインテリアとマッチしており、デザイン好きなイタリアならではの感性の高さを感じました。



コンパクトキッチンを提案した「sanwacompany」。日本企業で初めてのアワードを受賞。



クッチーナブースで見たキッチン面材のカラーバリエーションサンプル。今年のトレンドカラーを象徴しています。



初出展した google のテーマは「softwear」。ハイテクとその真逆のクラフトを融合させた心地よい展示であった。



nendoの個展「forms of movement」にて佐藤オオキ氏と。



絶滅危惧動物をテーマにインテリアを展開したオランダのデザインカンパニーmoooi。



8年ぶりの出展となったSONY。「Hidden Senses」というコンセプトのもと、ストーリーを持った体験をユニークなプロダクトや空間と共に提案。



サーモ処理で色付けされたオークのキッチン扉「Boffi」。

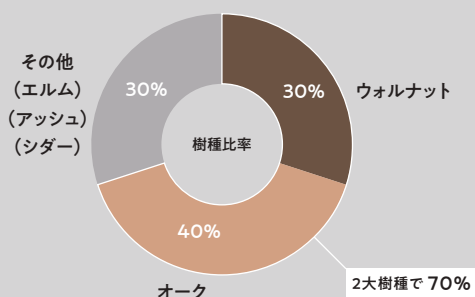


nendoの個展「forms of movement」にて、タイルメーカーX'Sの粘土自体が押し合って成型する陶磁器タイル。

2011

柔らかさ・素材感・タイムレスな価値

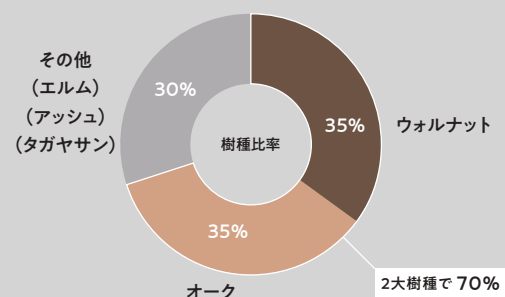
ミラノサローネ50年、イタリア建国150周年の記念すべき年。街の通りには国旗が掲げられ、イタリアの家具ブランドからは国旗をモチーフとした家具が展示された。グレーやブラウンを基調とした落ち着いた色調のあるベニスカラーに彩度の低いイエロー、ブルー、パープルをアクセントとして取り入れるスタイルがトレンド。木質はウォールナット、オークのトレンドは継続。塗装、着色、加工を工夫することによる、思わず触れたくなる素材感も特徴。古木のように使い込まれたようなビンテージ感や経年変化の味を施しタイムレスな価値を感じさせる仕上げもよく見られた。



2010

クリアオークとラウンドフォルムでナチュラル感を演出

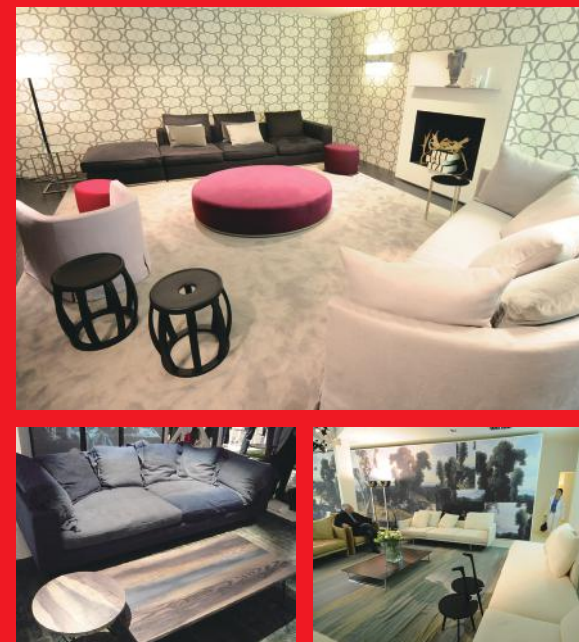
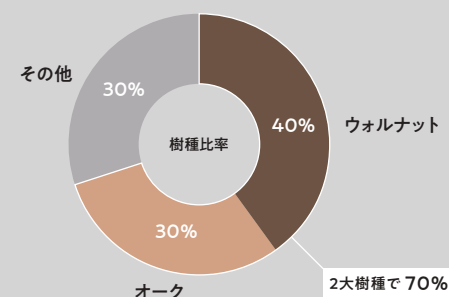
クリア仕上げのオークやアッシュなど淡い色目の樹種を使ったり、ラウンドフォルムなどで優しいナチュラルなイメージの演出が多く見られた。ブラック&ホワイトのミニマルな空間に低彩度なオレンジ、オリーブ、ブルーをアクセントに取り入れるコーディネートが多く、樹種は2大樹種のオーク、ウォールナットのほか、タガヤサンなどの希少材も見られた。オークはクリアでナチュラルに仕上げるほかブラウン着色も多い。ウォールナットは白太を生かしたものが見られ始めた。



2009

ホワイトな空間と経年による味わい

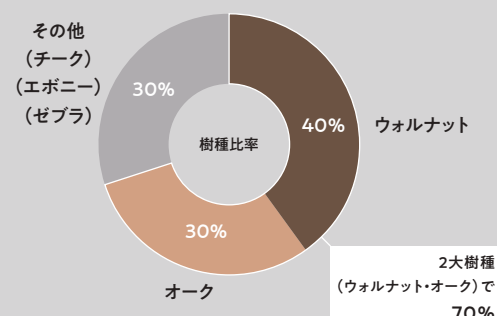
景気悪化の影響を受けて全体的に地味で、どちらかと言えば暮らす人の視線にたったライフスタイル提案型の展示が多かった。昨年のモノトーンミニマルから少しデコラティブ寄りに。新しい要素として経年変化による味わいと温かみを感じさせる演出がブラされた。時間を価値として訴求するというのがこの年のトレンドのひとつと言える。全体のカラーとしてはホワイトがベニスカラーとして多く見られた。木質化粧材はブラックウォールナットやイタリアアンウォールナットのクリア塗装、オークはオープンポア仕上げのクリア、もしくはグレー、スモークブラウン系の着色が多く見られた。



2008

直線的・平面的なモノトーンミニマル

ブラック&ホワイトのモノトーンミニマルがトレンド。景気が悪いときはモノトーンが流行ると言われますが、リーマンショックに繋がるサブプライムローン問題が前年に発生したことが影響しているのかもしれない。木質系はウォールナットとオークが2大樹種。オークはクリアかブラック着色が多い印象。木質系は比較的マットな仕上げが多いが、チーク、エボニー(黒檀)、ゼブラウッドなど編系の樹種はグロス仕上げでクラシックな雰囲気。壁掛けタイプの薄型テレビの普及とともに壁面との一体感を持たせた可動式の壁面収納家具が多く見られた。



2015

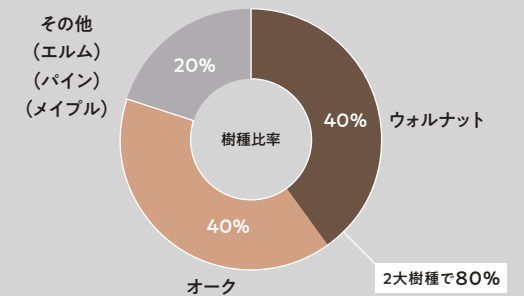
2014

2013

2012

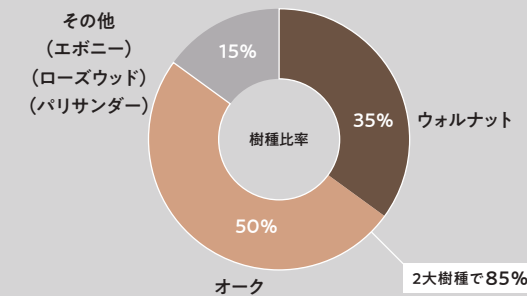
マット仕上の進化と キャラクター活用

ホワイト、グレー、グレイージュといった彩度の低いベイスカラーに、オレンジ、ターコイズブルー、ピンクなどビビッドなカラーをアクセントに用いるコーディネート。景気の回復傾向に合わせてビタミンカラーが少しずつ増えてきた印象。樹種はウォールナット、オークがメインは変わらず、その他の樹種はエルム、パイン、メイプルが目についた。また、アウトドア家具においては耐水性の高いチーク、イロコが多く使われていた。仕上げは素材に近いマットな仕上げと鏡面に近い仕上げに二極化。また節などのキャラクターを補修しデザインの一部として活用、ラフソーンなどの加工も拡大。ラフな印象に崩す手法が見受けられた。



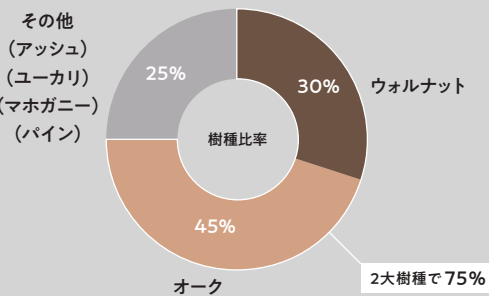
ワイルドウッド・ ラスティックトレンドの拡大

グレー、グレイージュなどのベイスカラーに彩度の低いイエローやブルーなどをアクセントに。また、アクセントカラーはビビッドな色合いからバステル系パウダー系まで幅広く見られた。定番のウォールナット、オークの2大樹種ではオークの存在感が増した。また、エボニー、ローズウッド、バリサンダーといった希少材が増加傾向。節や割れ、道管の凹凸の激しいものをワイルドウッドと呼んで意匠に活かすラスティックが本格的に増加した。ワイルドウッドは家具だけでなく床に使用するブリスも多く、洗練された家具にわざと床材でラフな印象に崩す手法が見受けられた。



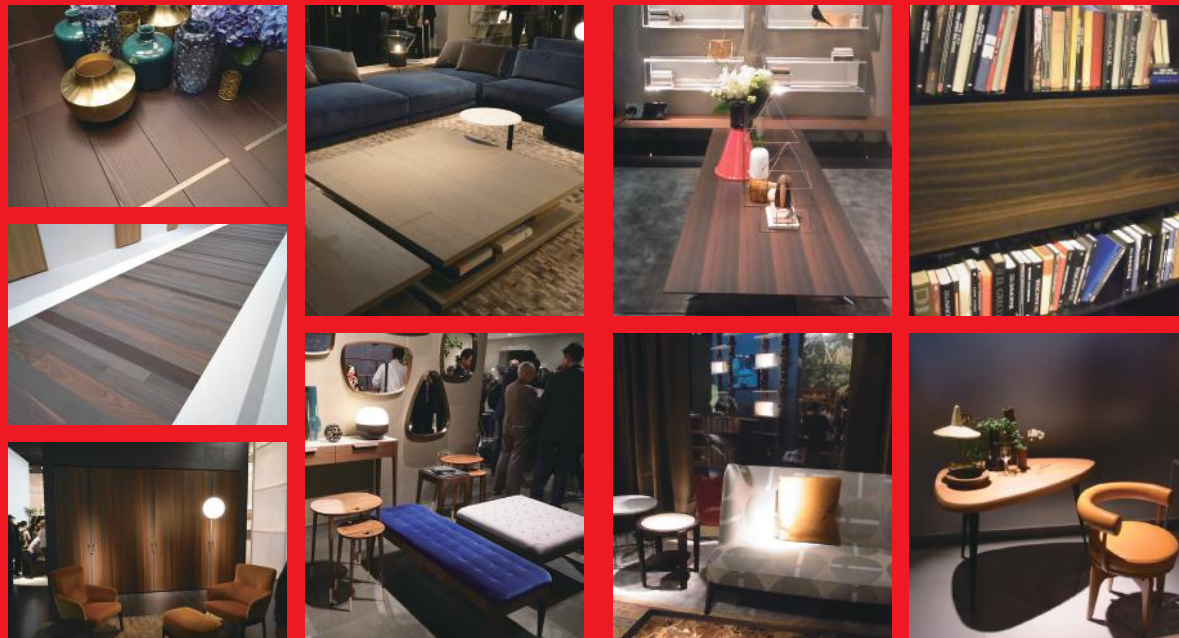
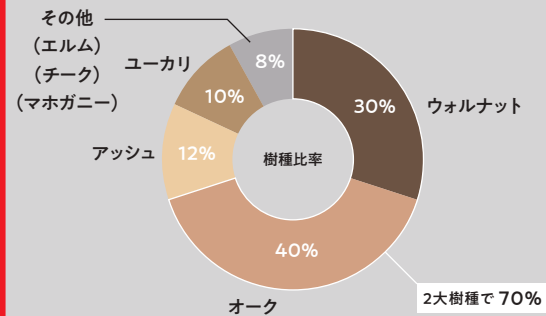
スモークユーカリの台頭

引き続きダークブラウン、グレーなど低彩度なベイスカラーで、樹種もウォールナット、オークがメイン。オークはモカ、ブラウン系の着色が多いが、この頃からユーカリとともに、熱処理で濃色に仕上げるスモーク仕上げが多く見られるようになる。前年から見られ始めたユーカリは価格の高騰するウォールナットの代替樹種として今後拡大していく。また、ラスティックな木目は減少傾向に移り、徐々にスタンダードでキレイな木目使いにシフトし始めた。



Live Natural プレミアム nendoサインがブレイク！

シックモダン&エレガントをキーワードに、グレー、ベージュを基調としたシックなインテリアが目立つ。ペルベッド素材やチェック、幾何パターンを用いたラグジュアリー感とクラシカルなテイストを加えるコーディネートが多く見られた。ウォールナット、オークの2大樹種に変わりはなく、この年はウォールナットの存在感が強い。またオークでは特にグレー着色が多い印象。スモーク仕上げのユーカリの柱目使いも昨年に引き続き多く見られた。佐藤オオキ率いるデザインオフィスnendoがデザインを手がけた当社の「Live Natural プレミアム stream」が発表された。デザイナーの視点でデザインされた新しい発想の建材に大きな可能性を感じた。



2017

2016



Salone del Mobile.Milano

10年を振り返って 変わらない「本物」の価値

この10年のトレンドを振り返ってみると、スタイルはほぼシンプルモダンの範疇にあるもののカラーは大きくモノトーンからグレー、ブラウン、ベージュといったアースカラーへ変化してきました。

木質に関しては、ウォルナットとオークの2大樹種の人気が続いています。2012年ころから大きな節や白太などのキヤクターを活かしたラスティックな木目が使われはじめ、近年では当たり前に見られるようになりました。ラスティックはひとつのスタイルとして定着しましたが、ここ数年は、どちらかというときれいな木目使いが多く見られるようになってきました。大きな節などを使った荒々しい表情は減少傾向ですが、さらさらとした光沢を放つ照りや経年変化による風合いといった天然木ならではの特徴を取り入れるデザインは、年々増えてきているように感じます。

このように、10年間でトレンドの変化が見取れますが、逆に変わらないものは「本物」というコンセプトではないでしょうか。

テクノロジーの進化によって新素材や、3Dプリンターなどをはじめとする新加工技術が生まれる一方で、天然素材の価値は年々高まってきているように感じます。素材にヒエラルキーはありませんが、やはり、本物だからこそ、表現ができたり、伝わるものがある

り、インテリアには、天然木を持つ素材の力がますます求められてきていることを実感しています。

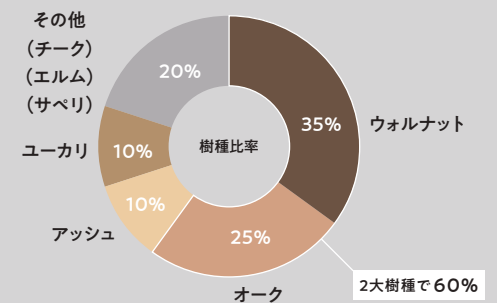
ミラノサローネのフェア会場、フォアを廻っていると、毎年、必ず感動を与えてくれる空間やプロダクトに出会えます。感動と共感をもって受け止めてもらえるものとはどのようなものでしょうか。それは、シンプルで「美しさ」「気持ちよさ」「心地よさ」を持つものであったり、作り手側の「メッセージ」や「思い」を感じ取れるものであったり、自分の人生観や美意識に響く「物語性」を持ったものであったりします。

私たちが扱う天然木は、もともと、表情の「美しさ」「触った時の「気持ちよさ」、香りも含めた「心地よさ」、樹種やその木固有の「物語性」を持っています。それらの要素を引き出し、さらに、そこにどのような「メッセージ」、どれだけの「思い」が込められるかが、私たちのテーマですが、新しい商品や提案は、時代の潮流を捉えたものでなければ、ユーザーの心を掴むことはできません。

いま何が求められているのか、人の感性に訴え、人の心に豊かさを与えられるものを生み出すためのヒントやアイデア、様々な気付きを与えてくれる、世界最大のデザインイベント「ミラノサローネ」に、今後も注目していきたいと思っています。

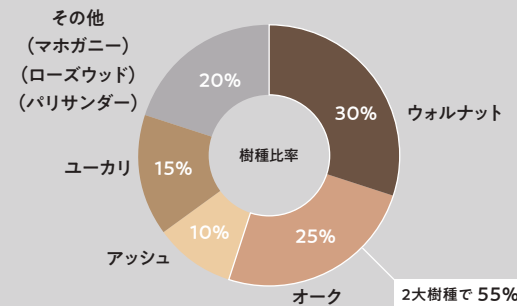
木目をパターンとして使う きれいな目デザイン

グレー、ブラウン、ベージュなどアースカラーが続く。オークとウォルナットの2大樹種は変わらないが、ウォルナットの比率が昨年以上に高まった印象。スモークユーカリは定番化した。節などのキヤクターを多用した激しいラスティックは少なくなり、キレイな木目使いが主流でブックマッチやスリップマッチといった伝統的なパターンをリズムカルに並べる意匠表現が多くブランドで見られた。一方で、キヤクターを適度に活用したほどラスティックは定番化した。フォアサローネでは、木の経年変化で愛着を表現したトヨタ自動車のコンセプトカー「SETUNA」が話題になった。



赤系樹種の台頭・ 空と照りによる躍動感

アースカラーをベースに強めのカラーを加えたエスニックカラー。グレー、ブラウン、ベージュに組み合わせられるアクセントカラーが昨年よりも濃く大きな面積で使われていた。オーク、ウォルナットの2大樹種は変わらないが、赤やオレンジ、カッパーといったカラートレンドに伴い、マホガニー、ローズウッド、パリスアンダーなど赤系樹種が拡大。また、それらの樹種に特徴的な空や照りを効果的に使い素材の躍動感を演出していたのも特徴的であった。すべてのものがインターネットに繋がるIoTが進むなかで、空間に癒し効果をもたらす天然木への注目度はますます高まっていく印象。





DESIGN PREMIUM BRUSH アッシュを採用頂いたキッチン。天井はいったん表し木部を洗い、表情を際立たせている。カウンターキャビネットには伝統の和ダンス用金具、トップはアクリルレジンに越前和紙を立体的に埋め込んだもの。和紙プロデューサーがフランスの会社と共同制作した世界初の作品だそう。和紙と光は相性が良く木枠四方から照明で照らすことでより幻想的な印象に。



「桃乃八庵」が建つエリアは昭和初期に開発され、皇族や財閥の別荘がこぞって建てられた景勝地。「桃乃八庵」のリビングからは手入れの行き届いた庭の先に熱海の海が望める。

「ニナル」
「デザイン」
「ケンチク」

築80年古民家再生プロジェクト 日本初のキュレーションホテル 「熱海桃乃八庵」

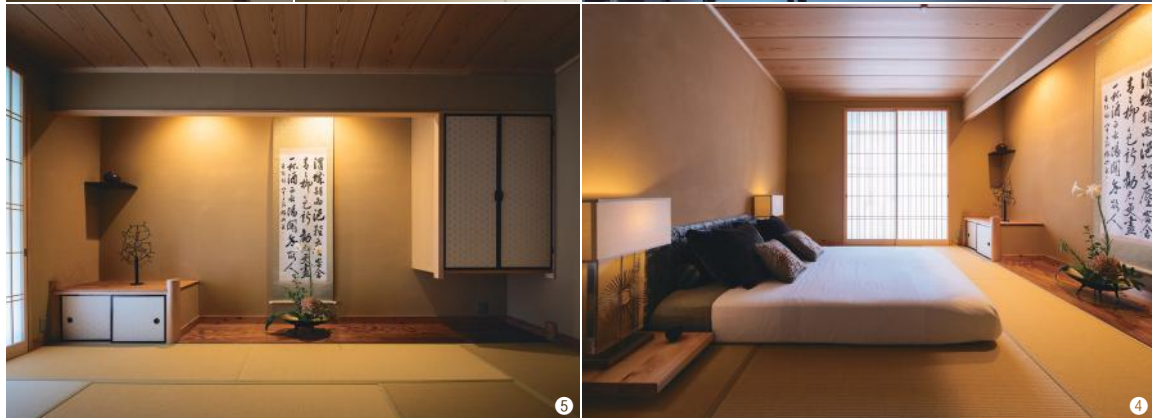
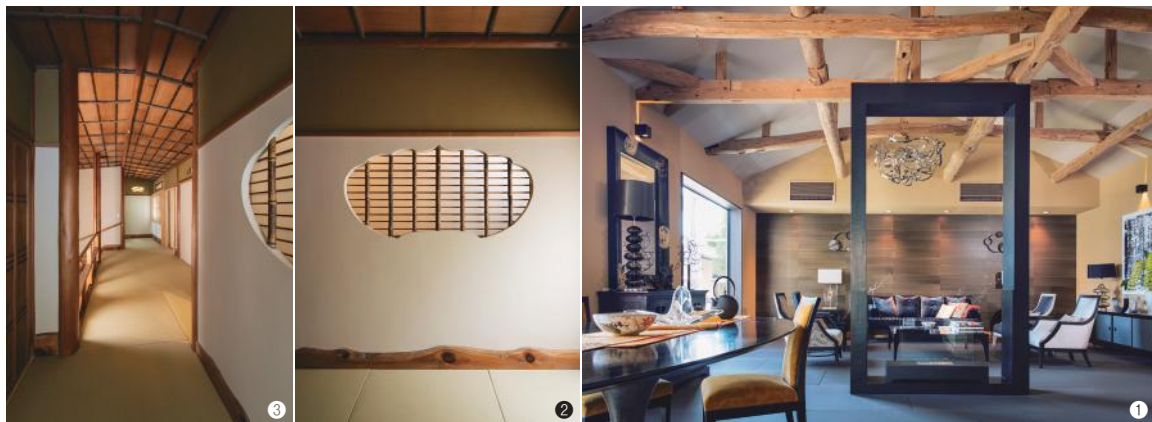
世界的なデザイン賞で入賞。築80年超の元旅館別館として使われた「古民家再生プロジェクト」。2階キッチンに、当社の床材 DESIGN PREMIUM BRUSH を採用頂きましたインテリアデザイナーの澤山乃莉子さんにお話を伺いました。

日本初のキュレーションホテルということですが

キュレーションホテルのキュレーションは「目利き」を指します。キュレーターであるオーナーが見立てた作品、空間、それらを体験し楽しみながら滞在できる複合宿泊施設です。現在、ホテルデザインの先進国である英国のホテルブランドがキュレーションホテルという流れに動いてきています。キュレーションホテルとは、地元の文化に根差したもの、地元の素材だったりアーティスト、クラフトマンといった人達の力をプロモーションするショーケースのような場で、この空間にあるアートや伝統工芸品は基本的にオーダーして頂きます。「こういう使い方が出来ますよ」ということを知って頂き、体験し、そして経験だけではなく持ち帰りご自身の生活に取り入れて頂く。アーツアンドクラフトトリズムの中心となるのがキュレーションホテルです。

熱海 桃乃八庵について

築80年を超える古民家を、キュレーションホテルとして蘇らせるにあたりできるだけ当時の貴重な意匠を残し、耐震基準をクリアする新たな工法を取り入れました。設計図は無く大工がひとつひとつ状況をあたり、使える材を見ながら作り上げているので天井や建具、組木細工など当時の意匠がふんだんに使われています。例えば、巾木は解体した天井の太い梁をスライスして再利用。木目や節など、どの部分を使用するかは優秀な大工の見立てです。空間については熱海という土地柄、全体的に海の表情を髣髴させるしつらえに。キャビネットやコンソール周辺のディスプレイ、色など海を連想させるもので繋いでいます。通常空間に強いエレメントを混ぜるとデザインが瓦解しがちですが、何かで繋ぐことでバランスがとれていき、またどの角度か



①2階リビング・ダイニング。もともと4つあった和室を繋げ、34畳の大空間に生まれ変わった。天井の梁は洗いをかけて使用。本来木の色はひとつひとつ違うものだが洗いの掛け方や回数によって同じ色へ仕上げる事ができる。これも優秀な大工や職人の技術がなせる業。②③2階廊下。天井、組木細工などオリジナルの意匠を残した空間となっている。④⑤1階寝室。畳に壁は聚楽塗り。床の間で使われている材料は全て解体部分からの銘木や建具を再利用している。障子は空間に合わせ澤山さんがデザイン製作されたもの。⑥⑦幕末に海外に大量に流出した日本のアートを里帰りさせることも桃乃八庵では重要な役割。こちらは長崎で作られた螺鈿細工のキャビネット。⑧2階リビング・ダイニング。伝統工芸とコンテンポラリーアートが共演するショーケースな空間には、澤山さんデザインのカリモク家具「蓮夕」シリーズをコーディネート。



キッチンには80年前の意匠をそのまま残した床の間も。材料から家具、工芸まで新旧織り交ぜて配置されたしつらえの中に、DESIGN PREMIUM BRUSH アッシュも自然と溶け込んでいる。床の間の右側には、澤山さんがデザインしたキャビネットをキャンバスに、ファッションデザイナー斉藤上太郎氏が手描きしたアートな一品も。



澤山乃莉子

一般社団法人 英国インテリアデザインビジネス協会 (BABID) 会長。BIID日本支部プレジデント。BIID Member。NSDAロンドンインテリアデザインオフィス代表。
2000年にロンドンで起業以来住宅、ホテルレストラン、家具デザイン、大手の開発事業などを手掛け、2016年6月には歴代8人目となる「BIID Merit Award 2016」受賞、2016 D&D Award入賞等、日英での受賞や雑誌掲載も多数。長年にわたるプロ向け欧州トレンドレポート、プロ向けデザイン塾主宰など、執筆・教育・講演分野でも活躍。日欧双方の視点からのデザイン各分野への提言は常に高い評価を誇る。

ら見ても絵になるように家具やアートを配置をしています。伝統工芸品とコンテンポラリーアートが共演する、日本の伝統と美を伝えられる空間となりました。

ご採用頂いたDESIGN PREMIUM BRUSH アッシュについてお聞かせ下さい

うづくりが好きなので、BRUSHの木目を浮き立たせた仕上がり、それによる足ざわりが良いですね。スリッパを履かない生活なので足ざわりは大切です。そして木材の自然な風合いを感じさせる加工と巾広デザイン。木材を巾広く取るということは技術の高さでもあり、何よりも木目が美しく綺麗に出ますよね。そしてアッシュという樹種の色合いの美しさ、どれを取っても大満足です。当時の意匠をそのまま残した床の間や、伝統工芸をあしらったキッチン、扉、家具等とも合っていますよね。

(取材・田中)

スプリース

産地・分布：北アメリカ、ヨーロッパ

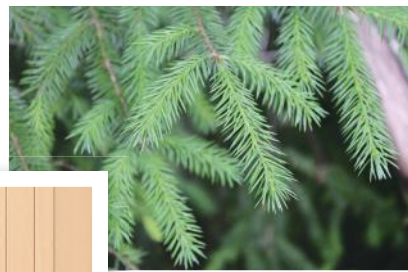
分類：マツ科の針葉樹

樹高：30mから70m超まで

胸高さ樹径：0.8～1.8mくらい

用途：住宅の内装造作材、家具の骨材、梱包箱、
弦楽器の表層材、クリスマスツリーなど

スプリース 立ち木



(上) スプリースの葉っぱ
(中) スプリースのさわやかな
表情を活かした内装用壁材
(下) アコースティックギターへの使用例



スプリースは北半球の様々な地域に分布している常緑針葉樹です。スプリースの仲間は世界で50種類近くの呼び名をもっています。

北米産のものは「シトカ・スプリース」「シトカ・トウヒ(唐檜)」と呼ばれており、樹高が70mを超えることもある、スプリースの仲間では最大のもです。アコースティックギターのボディトップ材として使われることでも有名です。

ヨーロッパ産のものは「ヨーロピアンスプリース」「ホワイトウッド」と呼ばれており、ヨーロッパからロシア西部まで広い範囲に分布し、ノルウェーでは昔ながらのクリスマスツリーに用いられます。

スプリースの木理は通直、肌目は緻密、材色は白色に近いものから淡黄褐色、気乾比重は0.45程度。材質は軽いが強固で加工性がよく、また白手のきれいな材色であることから、広範囲に利用されている木です。建築用の造作材や建具、家具など多岐にわたりますが、日本では特に障子の骨材として見受けられます。

ライト兄弟の世界初の飛行機に使われたのは軽くて強いという性質から、バイオリンのストラディバリウスの表板に使われたのは寒冷な気候の影響で木目が緻密かつ均一に整っていて素晴らしい音質に繋がるから、ということだそうです。

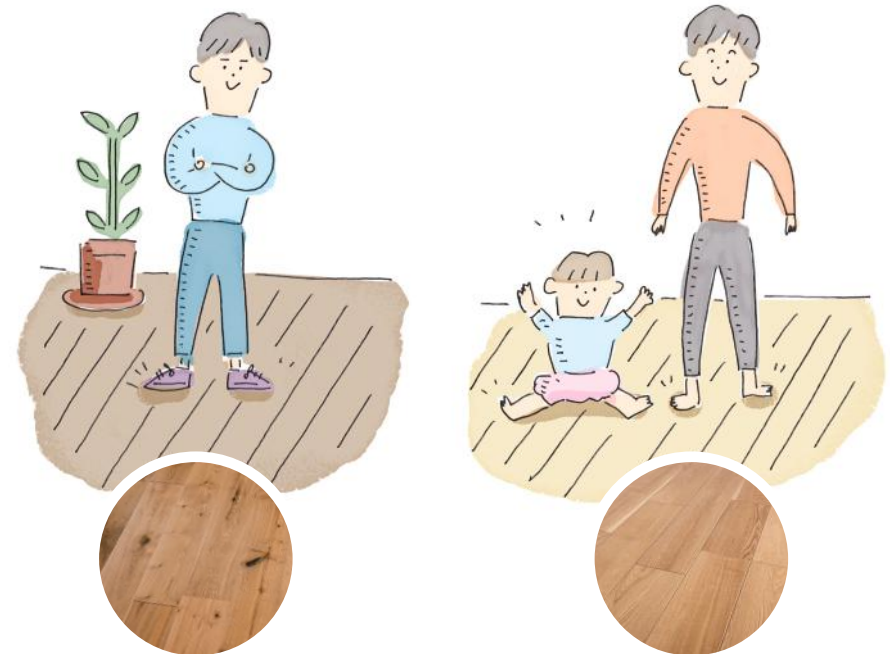
材色が白っぽく、日焼けで褐色がかっていくことから、着色して使うのがよいとも言われますが、実際はきれいな白色と肌目そのままでも利用され、自然な経年変化を受け入れるケースが多いようです。

スプリースは一般的には安物とか、耐久性が低いとされています。ただこれだけ明るく軽快で、美しい見えがかりを持ち、加工しやすく、なんといっても安いということで、その性質を知って利用すれば、使い勝手にたいへん優れた材料と言えるでしょう。(文・脇)

知っていると役立つ
床のおはなし

床

知ってココロ知識

土足用フローリングと
住宅用フローリングの違い

フローリングには、住宅などで使用される住宅内装用フローリングと、店舗や商業施設などで使用される内装土足用フローリングがあります。

土足用は、多数の人の歩行や砂・雨水の持ち込みにより、一般的に住宅用と比較して厳しい環境で使用されます。土足用と住宅用とは、大きく分けて①意匠性②基材③塗装の3つの違いがあります。

当社の場合、意匠性の違いは、使用する木材のグレードの違いによって現れます。住宅用では、大きな節や白太などのキャラクターが入らない部分だけを使用したものが主流ですが、土足用では住宅用の仕様から外れてしまった木材も有効活用するために、キャラクターの大きい(荒々しい)木材も使用しています。

基材には、雨に濡れた靴に踏まれることを想定し、住宅用で使用する合板よりも接着耐久性の高い合板を使用しています。

塗装は、土足で歩くために強度が必要になります。そのため、住宅用よりも傷などに強い塗装を施しています。塗装性能としては、耐傷性・耐摩耗性・耐ヒールマーク(靴で地面を擦ったときに、靴底のゴムによって付着する黒い汚れ)性の3つを向上させています。さらに輝度を落とすことで、傷がついたときに目立ちにくくしています。(文・築)



ご意見・ご質問・ご要望等ございましたら、
info2@woodtec.co.jpまで。

2018年のミラノサローネ視察は
4人で行かせていただきました。

編集後記



実は昨年結婚しました！1月に顔合わせ、4月に結納、5月に入籍、7月に引っ越し、9月に結婚式、11月に新婚旅行と、本当に慌ただしい年になりました。写真もたくさん撮りましたが、最近夫婦でハマっているのが「しまうまプリント」でのアルバム作りです。この冊子cueの編集も面白いですが、「しまうまプリント」もかなり楽しいです。(西村)



日本人でありながら人生50年以上まともな富士山を見たことがなく、先日週末3日間を利用して「とにかく富士山を見るぞ」の旅に行きました。ところが最初の2日は雨で全く顔を出してくれず、縁がないと思った3日め、やっと素晴らしい富士山が現れてくれて大感動！（脇）



今号の取材でインテリアデザイナーの澤山乃莉子さんが手掛けられた熱海桃乃八庵を訪れました。自社製品を採用して頂いたお客様を訪ねる時はいつも心が躍ります。今回の取材でとても印象的だったのは、地元の大工さんや職人さんの技が光る仕上げの数々。美しい匠の技に、改めて日本の技術の高さ、素晴らしいさを実感しました。(田中)



昨年、登山に初挑戦しました。といっても、入門コースなので1時間～2時間程度のコースなのですが、運動不足の私にはなかなかハードでした…。ただ、登頂すると綺麗な景色が広がっていて、疲れも吹き飛びます！また、登頂するまでの道では森林浴ができ、とても癒されました。今年の夏もまた登りたいなと、今から楽しみです。(山野)



初めまして、今年度入社致しました榮です！「知っトコ豆知識」を担当させていただきました。先日、初めてサッカー観戦に行ってきました。今までワールドカップをテレビで見る程度だったのですが、やはり生で見ると迫力が全然違いますね。次は、ゴール裏でファンの皆さんと飛び跳ねながら応援してみたいです！（榮）

cue

07

発行日 2019年02月15日
編集長 西村公孝
デザイン 鈴木信輔(ポールド)
イラスト 鈴木志穂 [P19]
発行 朝日ウッドテック株式会社

【cue(キュー) = 手掛かり、きっかけ】

楽器
と木

Violin
バイオリン



見た目の印象を決める裏板

2つの写真のうち、どちらのデザインが好きですか？

この2枚の写真、どちらもバイオリンの裏板です。バイオリンの裏板のデザインは、普段そんなに注目される部分ではないですが、実はバイオリン奏者の好みが出る部分だそうです。今回は、バイオリン奏者こだわりの「裏板」についてご紹介いたします。

なぜ、こだわるのでしょうか？

もちろんバイオリンは楽器なので、楽器を選ぶ時に一番大切なのは、音色にもっとも影響する表板の材質です。“裏板のデザインは音色にはあまり影響しない”というのが、現在のバイオリン製作の考え方だそうです。

では、どうして裏板にもこだわるのでしょうか・・・？それは、バイオリンという楽器が、他の楽器と比べても長期間に渡って弾きこまれるからです。実際、名器として有名なストラディバリウスは1600～1700年代に作られており、もう300年以上も弾きこまれています。長期間使いこむものなので美しさも欠かせないポイントとなり、表板の材質だけでなく裏板のデザインにもこだわる人が多いんです。

裏板のデザインバリエーション

一般的に、バイオリンの裏板には「メープル(楓)」が使われています。中でも、「カーリー空(虎空)」という特徴的な

縞模様が入ったメープルは、見た目が美しいことから好まれています。同じカーリー空を持つメープルを使っても、デザインの仕方によってバイオリンの見た目は大きく変わってきます。

例えば写真のバイオリンの裏板は、右側は裏板の真ん中で2枚の板を接ぎ合わせたデザイン、左側は裏板全てが1枚板のデザインです。2枚接ぎの裏板は、カーリー空の縞模様が左右対称にデザインされた美しい見た目になりますし、1枚板の場合は、単純計算で2枚接ぎの裏板の2倍の太さの木から板を切り出しているの、贅沢感のある見た目になります。

このようにデザインが違えば音色も変わるように思いますが、1枚板にも2枚接ぎにも遜色なく名器はあり、どちらが優れているということはありません。そのため、バイオリンの裏板のデザインは奏者の好みによって選べるんですね。

どんな模様を選びますか？

メープルを贅沢に使った1枚板か、それとも左右対称な2枚接ぎか・・・長期間使いこむ楽器だからこそ、やはり迷いますね。しかし、それもまたバイオリンの魅力の1つだと思います。バイオリンが使われることがあれば、是非、裏板にも注目してみてくださいね！

(文・山野)